

第2回化学物質部会 論点メモ

○評価対象とすべき試験と参考資料にする試験の整理（グリシドアミドの取扱いを含む）

特に、意見が分かれている試験（資料3において一部△が付された試験）についてどうか。

○評価対象とする試験について、NOAEL/LOAELの検討

（参考）海外の主な毒性評価

（1）JECFA（2011）

○非発がん毒性

90日間飲水投与試験（ラット）における神経組織の形態学的変化（Burek et al. 1980）
：NOAEL 0.2 mg/kg 体重/日

○発がん性

2年間飲水投与試験（ラット）における雌ラットの乳腺線維腺腫（Beland et al. 2010）
：BMDL₁₀ 0.31 mg/kg 体重/日

※ただし、影響がみられた最低投与量は雌ラットにおける陰核腺癌で0.44 mg/kg 体重/日。

2年間飲水投与試験（マウス）における雄マウスのハーダー腺腺腫（Beland et al. 2010）
：BMDL₁₀ 0.18 mg/kg 体重/日

（2）EPA/IRIS（2010）

○非発がん毒性

2年間飲水投与試験（ラット）における退行性の神経変化（Johnson et al. 1986）
：NOAEL 0.5 mg/kg 体重/日、LOAEL 2 mg/kg 体重/日、BMDL₅ 0.27 mg/kg 体重/日
：慢性 RfD 0.002 mg/kg 体重/日

○発がん性

2年間飲水投与試験（ラット）における雄ラットの甲状腺腫瘍及び精巣鞘膜中皮腫の発生頻度の増加（Johnson et al. 1986）
：BMDL₁₀ 1.50×10^{-1} mg/kg 体重/日
：経口スロープファクター 0.51 [mg/kg 体重/日]⁻¹